

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の設置							
ツカナ設置者		ガッコウホウジン ショウヨウガクエン 学校法人 常翔学園							
ツカナ大学の名称		セツナンダ イカクガクイン 摂南大学大学院							
大学本部の位置		大阪府寝屋川市池田中町17番8号							
大学の目的		摂南大学大学院は、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		農学研究科農学専攻は、自然科学から社会科学までの幅広いアプローチにより、「食」と「農」に関わる高度な専門知識・技術を修得し、広い視野と高い倫理観を身につけ、国内外の諸問題の解決や地域社会および国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 農学部 農業生産学科 応用生物科学科 食品栄養学科 食農ビジネス学科
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
	農学研究科 農学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (農学)	令和6年4月 第1年次		
	農学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (農学)	令和6年4月 第1年次		
計			23	—	49				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
	農学研究科 農学専攻 博士前期課程	28科目	12科目	—科目	40科目	30単位			
	農学研究科 農学専攻 博士後期課程	1科目	5科目	—科目	6科目	22単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	農学研究科 農学専攻 (博士前期課程)	30 (30)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	3 (3)
		農学専攻 (博士後期課程)	29 (29)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	47 (47)	0 (0)	0 (0)
		計	30 (30)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	— (—)
	既設分	薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)	20 (20)	13 (13)	12 (12)	0 (0)	45 (45)	0 (0)	2 (2)
		理工学研究科 社会開発工学専攻 (博士前期課程)	16 (16)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
		生産開発工学専攻 (博士前期課程)	13 (13)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
		生命科学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
		創生工学専攻 (博士後期課程)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		生命科学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)

教員組織の概要	既設分	経済経営学研究科 経済学専攻 (修士課程)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
		経営学専攻 (修士課程)	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	
		法学研究科 法学専攻 (修士課程)	9 (9)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
		国際言語文化研究科 国際言語文化専攻 (修士課程)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	4 (4)	
		看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	
		計	113 (113)	63 (63)	18 (18)	0 (0)	194 (194)	0 (0)	- (-)	
		合計	143 (143)	76 (76)	23 (23)	0 (0)	242 (242)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	大学全体					
	事務職員	164 (164)	48 (48)	212 (212)						
	技術職員	12 (12)	0 (0)	12 (12)						
	図書館専門職員	4 (4)	14 (14)	18 (18)						
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計	180 (180)	62 (62)	242 (242)						
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	151,384.54㎡	0㎡	0㎡	151,384.54㎡					
	運動場用地	147,400.85㎡	0㎡	0㎡	147,400.85㎡					
	小計	298,785.39㎡	0㎡	0㎡	298,785.39㎡					
	その他	17,352.60㎡	0㎡	0㎡	17,352.60㎡					
合計	316,137.99㎡	0㎡	0㎡	316,137.99㎡						
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計						
	142,700.58㎡ (142,700.58㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	142,700.58㎡ (142,700.58㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	90室	113室	108室	15室 (補助職員5人)	34室 (補助職員4人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数						
	農学研究科 農学専攻			54室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚 資料 点	機械・ 器具 点	標本 点	<ul style="list-style-type: none"> ・農学部との共用分を含む ・大学全体の共用分 図書：533,164冊 〔190,797冊〕 学術雑誌：3,818種 〔2,383種〕 視聴覚資料：11,118点 		
	農学研究科	80,648 [17,634] (80,648 [17,634])	581 [351] (581 [351])	22 [22] (22 [22])	706 (706)	3,645 (3,591)	30 (30)			
	計	80,648 [17,634] (80,648 [17,634])	581 [351] (581 [351])	22 [22] (22 [22])	706 (706)	3,645 (3,591)	30 (30)			
図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体						
	8,230.45㎡	1,163席	635,945冊							
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体						
	7,401.43㎡	該当なし								
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当り研究費等は研究科単位での算出不能なため、学部との合計。 図書購入費は、電子ジャーナル、データベース費用を含む。	
	教員1人当り研究費等		980千円	980千円	980千円	一千円	一千円	一千円		
	共同研究費等		25,000千円	25,000千円	25,000千円	一千円	一千円	一千円		
	図書購入費	7,800千円	7,800千円	7,800千円	7,800千円	一千円	一千円	一千円		
	設備購入費	4,000千円	4,294千円	4,000千円	4,000千円	一千円	一千円	一千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	農学専攻 (博士前期課程)	1,100千円	950千円	一千円	一千円	一千円	一千円			
	農学専攻 (博士後期課程)	1,120千円	900千円	900千円	一千円	一千円	一千円			
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入等									

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	4	—	16	博士 (薬学)	0.62	平成24年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号
	理工学研究科 博士前期課程 社会開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	1.33	平成元年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	生産開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	1.00	平成26年度	同上
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (理学)	1.40	平成26年度	同上
	理工学研究科 博士後期課程 創生工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.16	平成20年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	生命科学専攻	3	2	—	6	博士 (理学)	1.00	平成28年度	同上
	経済経営学研究科 修士課程 経済学専攻	2	5	—	10	修士 (経済学)	0.20	平成26年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	経営学専攻	2	5	—	10	修士 (経営学)	0.30	平成26年度	同上
	法学研究科 修士課程 法律学専攻	2	5	—	10	修士 (法学)	0.00	平成9年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	国際言語文化研究科 修士課程 国際言語文化専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.00	平成11年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	看護学研究科 修士課程 看護学専攻	2	6	—	12	修士 (看護学)	0.83	平成28年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍	年度		
	理工学部 学部合計		585		2,315		0.98			
	生命科学科	4	105	3年次 5	415	学士 (理学)	0.90	平成22年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和3年度入学定員増 (15人)
	住環境デザイン学科	4	85	3年次 5	335	学士 (工学)	1.00	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増 (15人)
	建築学科	4	80	3年次 5	320	学士 (工学)	1.02	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増 (10人)
	機械工学科	4	130	3年次 5	510	学士 (工学)	0.99	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増 (20人)
	電気電子工学科	4	105	3年次 5	415	学士 (工学)	1.03	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増 (15人)
	都市環境工学科	4	80	3年次 5	320	学士 (工学)	0.97	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増 (10人)
	外国語学部 外国語学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和57年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和4年度学生募集停止 令和6年度3年次編入学募集停止
	国際学部 国際学科	4	250	3年次 5	500	学士 (文学)	1.04	令和4年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和4年度学部設置
	経営学部 学部合計		280		908		1.03			
	経営学科	4	280	3年次 6	908	学士 (経営学)	1.03	平成18年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和4年度入学定員増 (110人)
	経営情報学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	昭和57年度	同上	令和4年度より学生募集停止 令和6年度3年次編入学募集停止
	薬学部 薬学科(6年制)	6	220	—	1,320	学士 (薬学)	1.02	平成18年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号	
	法学部 法律学科	4	280	3年次 5	1,100	学士 (法学)	1.01	昭和63年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和3年度入学定員増 (30人)
	経済学部 経済学科	4	280	3年次 4	1,098	学士 (経済学)	1.03	平成22年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和3年度入学定員増 (30人)
	看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.01	平成24年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号	
	農学部 学部合計		340		1,360		0.97			令和2年度学部設置
	農業生産学科	4	80	—	320	学士 (農学)	0.89	令和2年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号	
	応用生物科学科	4	80	—	320	学士 (農学)	0.94	令和2年度	同上	
	食品栄養学科	4	80	—	320	学士 (農学)	0.96	令和2年度	同上	
	食農ビジネス学科	4	100	—	400	学士 (農学)	1.06	令和2年度	同上	
	現代社会学部 現代社会学科	4	250	—	250	学士 (社会学)	—	令和5年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号	令和5年度学部設置

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学大学院							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍	年度		
既設大学等の状況	工学研究科 博士前期課程 建築・都市デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.01	平成29年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	
	電気電子・機械工学専攻	2	50	—	100	修士 (工学)	1.53	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.50	平成29年度	同上	
	工学研究科 博士後期課程 生体医工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成19年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	平成29年度学生募集停止
	電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和42年度	同上	平成29年度学生募集停止
	建築・都市デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	平成29年度	同上	
	電気電子・機械工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.66	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.66	平成29年度	同上	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士前期課程 ロボティクス&デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.43	平成29年度	大阪府大阪市北区 茶屋町1番45号	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士後期課程 ロボティクス&デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.50	平成29年度	大阪府大阪市北区 茶屋町1番45号	
	情報科学研究科 博士前期課程 情報科学専攻	2	40	—	80	修士 (情報学)	1.01	平成12年度	大阪府枚方市北山 一丁目79番1号	
	情報科学研究科 博士後期課程 情報科学専攻	3	5	—	15	博士 (情報学)	0.13	平成14年度	大阪府枚方市北山 一丁目79番1号	
	知的財産研究科 専門職学位課程 知的財産専攻	2	30	—	60	知的財産修士 (専門職)	1.45	平成17年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	

既設大学等の状況	大学の名称		大阪工業大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍	年度		
	工学部 学部合計		900		3,680		1.03			
	都市デザイン工学科	4	100	3年次 5	410	学士 (工学)	1.07	昭和24年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	
	空間デザイン学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成18年度	同上	平成29年度学生募集停止 平成31年度3年次編入学募集停止
	建築学科	4	150	3年次 5	610	学士 (工学)	1.04	昭和24年度	同上	
	機械工学科	4	140	3年次 5	570	学士 (工学)	1.00	昭和25年度	同上	
	ロボット工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成22年度	同上	平成29年度学生募集停止 平成31年度3年次編入学募集停止
	電気電子システム工学科	4	125	3年次 5	510	学士 (工学)	1.07	昭和24年度	同上	
	電子情報システム工学科	4	110	3年次 5	450	学士 (工学)	1.05	昭和34年度	同上	平成31年度から名称変更 電子情報通信工学科→ 電子情報システム工学科
	応用化学科	4	130	3年次 5	530	学士 (工学)	1.00	昭和33年度	同上	
	環境工学科	4	75	3年次 5	310	学士 (工学)	1.00	平成18年度	同上	
	生命工学科	4	70	3年次 5	290	学士 (工学)	0.98	平成22年度	同上	
	ロボティクス&デザイン工学部 学部合計		280		1,150		1.07			
	ロボット工学科	4	90	3年次 5	370	学士 (工学)	1.08	平成29年度	大阪府大阪市北区 茶屋町1番45号	
	システムデザイン工学科	4	90	3年次 5	370	学士 (工学)	1.06	平成29年度	同上	
	空間デザイン学科	4	100	3年次 5	410	学士 (工学)	1.06	平成29年度	同上	
	情報科学部 学部合計		460		1,840		1.04			
	データサイエンス学科	4	70	—	210	学士 (情報学)	0.97	令和3年度	大阪府枚方市北山 一丁目79番1号	令和3年度学科設置
	情報知能学科	4	90	3年次 5	385	学士 (情報学)	1.04	平成8年度	同上	平成31年度から名称変更 コンピュータ科学科→ 情報知能学科 令和3年度入学定員減 (△15人)
	情報システム学科	4	105	3年次 5	430	学士 (情報学)	1.04	平成8年度	同上	
	情報メディア学科	4	105	3年次 5	430	学士 (情報学)	1.02	平成14年度	同上	
	ネットワークデザイン学科	4	90	3年次 5	385	学士 (情報学)	1.08	平成19年度	同上	平成31年度から名称変更 情報ネットワーク学科→ ネットワークデザイン学科 令和3年度入学定員減 (△15人)
	知的財産学部 知的財産学科	4	140	3年次 10	580	学士 (知的財産学)	1.02	平成15年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.10	平成15年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	看護学研究科 博士後期課程 看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.00	平成24年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	医療・福祉科学研究科 博士前期課程 医療工学専攻	2	10	—	20	修士 (医療工学)	0.85	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療・福祉科学研究科 博士後期課程 医療工学専攻	3	2	—	6	博士 (医療工学)	0.83	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療・福祉科学研究科 修士課程 医療福祉学専攻	2	5	—	10	修士 (医療福祉学)	0.00	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療経営学専攻	2	5	—	10	修士 (医療経営学)	0.30	平成21年度	同上
	心理科学研究科 博士後期課程 臨床心理学専攻	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.00	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	心理科学研究科 専門職学位課程 実践臨床心理学専攻	2	20	—	40	臨床心理修士 (専門職)	0.70	平成21年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.12	平成24年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍	年度		
	保健医療学部 学部合計		220		880		1.05			
	診療放射線学科	4	70	—	280	学士 (診療放射線学)	1.18	平成10年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	
	医療技術学科 臨床工学専攻 臨床検査学専攻	4	100	—	400	学士 (臨床工学) (臨床検査学)	0.96	平成25年度	同上	令和2年度入学定員減 (△30人)
	救急救命学科	4	50	—	200	学士 (救急救命学)	1.05	令和2年度	同上	令和2年度学科設置
	総合リハビリテーション学部 学部合計		180		720		1.04			
	リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻 言語聴覚療法専攻 義肢装具学専攻	4	180	—	720	学士 (理学療法) (作業療法) (言語聴覚療法) (義肢装具学)	1.04	平成25年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度入学定員増 (50人) (義肢装具学専攻をリハビリテー ション支援学科から移行)
	リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士 (義肢装具学)	—	平成25年度	同上	令和2年度学生募集停止
	医療福祉学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育学専攻	4	—	—	—	学士 (医療福祉学)	—	平成10年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学募集停止
	医療経営学部 医療経営学科	4	—	—	—	学士 (医療経営学)	—	平成23年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止
	心理科学部 臨床心理学科	4	—	—	—	学士 (臨床心理学)	—	平成13年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	平成27年度学生募集停止 平成29年度3年次編入学募集停止
	心理学部 心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	平成27年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学募集停止
	看護学部 看護学科	4	120	3年次 10	500	学士 (看護学)	0.97	平成15年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	
	薬学部 薬学科(6年制)	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.77	平成18年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	
	医療栄養学部 医療栄養学科	4	—	—	60	学士 (医療栄養学)	—	平成26年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	令和2年度学生募集停止
	健康科学部 学部合計		350	—	1,400		0.79			令和2年度学部設置
	医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育福祉学専攻	4	100	—	400	学士 (医療福祉学)	0.61	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	
	医療経営学科	4	90	—	360	学士 (医療経営学)	0.92	令和2年度	同上	
	心理学科	4	100	—	400	学士 (心理学)	0.79	令和2年度	同上	
	医療栄養学科	4	60	—	240	学士 (医療栄養学)	0.92	令和2年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	
	健康スポーツ学部 健康スポーツ学科	4	70	—	280	学士 (健康スポーツ学)	1.05	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学部設置

附属施設の概要	<p>名称：テクノセンター 目的：工学分野教育 所在地：大阪府寝屋川市池田中町17番8号 設置年月：平成11年4月 規模等：面積691.81㎡</p>	
	<p>名称：薬用植物園 目的：薬学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山西ノ口1番 設置年月：昭和57年4月 規模等：面積1,720.00㎡</p>	
	<p>名称：臨床薬学教育研究センター 目的：薬学分野教育 所在地：大阪府枚方市長尾峠町45番1号 設置年月：平成20年4月 規模等：面積1,584.59㎡</p>	
	<p>名称：農場 目的：農学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山一ノ谷1番 設置年月：平成32年4月 規模等：面積15,632.60㎡</p>	

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）

広島国際大学			
健康科学部	社会学科	(100)	(令和5年4月届出予定)
健康科学部	医療福祉学科	(△100)	※令和6年4月学生募集停止
広島国際大学大学院			
医療科学研究科			
保健医療学専攻			
	博士前期課程	(5)	
	博士後期課程	(2)	
リハビリテーション学専攻			
	博士前期課程	(5)	
	博士後期課程	(2)	
健康科学研究科			
医療福祉学専攻			
	修士課程	(5)	
医療経営学専攻			
	修士課程	(5)	
心理学専攻			
	博士前期課程	(20)	
心理学専攻			
	博士後期課程	(2)	(令和5年4月届出予定)
医療・福祉科学研究科			
医療工学専攻			
	博士前期課程	(△10)	
	博士後期課程	(△2)	
医療福祉学専攻			
	修士課程	(△5)	
医療経営学専攻			
	修士課程	(△5)	
心理科学研究科			
実践臨床心理学専攻			
	専門職学位課程	(△20)	
臨床心理学専攻			
	博士後期課程	(△2)	※令和6年4月学生募集停止

教育課程等の概要															
(農学研究科 農学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	食農科学特論A	1前	2			○			29					オムニバス・共同(一部)	
	食農科学特論B	1通		2		○			5					オムニバス・共同(一部)	
	コミュニケーション英語	1前		1		○								兼1	
	サイエンスプレゼンテーション演習	1後		1			○							兼1	
	アグリビジネス論	1通		1		○			4					オムニバス	
	アグリデータ解析特論	1後		1			○							兼1 集中	
	小計(6科目)	—	2	6	0	—	—	—	29	0	0	0	0	兼3	—
専門科目	農業生産科学領域	生産生態基盤学特論	1前		2		○			1		1			オムニバス・共同(一部)
		作物科学特論	1前		2		○			2					オムニバス
		園芸科学特論	1後		2		○			1		1			オムニバス・共同(一部)
		応用昆虫学特論	1後		2		○			1	1				オムニバス
		植物病理学特論	2前		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
		植物遺伝育種科学特論	2前		2		○			1	1				オムニバス
		農業生産科学演習Ⅰ	1通		4			○		7	3	2			
		農業生産科学演習Ⅱ	2通		4			○		7	3	2			
		小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	7	3	2	0	0	0
応用生物科学領域	植物分子生理学特論	1前		2		○			1	1				オムニバス	
	ゲノム生物学特論	1前		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
	植物環境微生物学特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
	応用微生物学特論	1後		2		○			2					オムニバス・共同(一部)	
	動物機能科学特論	2前		2		○			1	1				オムニバス	
	海洋生物学特論	2前		2		○			1		1			オムニバス・共同(一部)	
	応用生物科学演習Ⅰ	1通		4			○		7	4	1				
	応用生物科学演習Ⅱ	2通		4			○		7	4	1				
	小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	7	4	1	0	0	0	—
食品栄養科学領域	食品学・食品衛生学特論	1前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)	
	調理・給食経営管理特論	1前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)	
	代謝栄養学特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
	臨床栄養学特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
	公衆衛生・公衆栄養学特論	2前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)	
	生化学・運動生理学特論	2前		2		○			1		1			オムニバス・共同(一部)	
	食品栄養科学演習Ⅰ	1通		4			○		8	2	1				
	食品栄養科学演習Ⅱ	2通		4			○		8	2	1				
	小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	8	2	1	0	0	0	—
食農ビジネス学領域	農業経済・経営・政策特論	1前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)	
	食品産業・流通特論	1前		2		○			1		1			オムニバス・共同(一部)	
	地域マネジメント特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	
	食農・循環型農業特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)	

教育課程等の概要

(農学研究科 農学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	食農ビジネス学領域														
	食品マーケティング特論	2前		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	都市・農村コミュニティビジネス特論	2前		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	食農ビジネス学演習Ⅰ	1通		4			○		7	4	1				
	食農ビジネス学演習Ⅱ	2通		4			○		7	4	1				
小計(8科目)		—	0	20	0	—	—	—	7	4	1	0	0	0	—
特別研究科目	農学特別研究Ⅰ	1通	4				○		29	13	5				
	農学特別研究Ⅱ	2通	4				○		29	13	5				
	小計(2科目)	—	8	0	0	—	—	—	29	13	5	0	0	0	—
合計(40科目)		—	10	86	0	—	—	—	30	13	5	0	0	兼3	—
学位又は称号		修士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係、家政関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目10単位および選択科目20単位以上(共通科目から4単位以上、専門領域の講義科目4単位以上、専門領域の演習科目8単位を含む)、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要														
(農学研究科 農学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義科目	食農科学特別講義	1通	2			○			5					オムニバス・共同(一部)
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			5	0	0	0	0	—
演習科目	農業生産科学特別演習	1～2通		8				○	7	3	2			
	応用生物科学特別演習	1～2通		8				○	7	4	1			
	食品栄養科学特別演習	1～2通		8				○	8	2	1			
	食農ビジネス学特別演習	1～2通		8				○	7	4	1			
	小計(4科目)	—	0	32	0	—			29	13	5	0	0	—
特別研究科目	特別研究	1～3通	12					○	28	13	5			
	小計(1科目)	—	12	0	0	—			28	13	5	0	0	—
合計(6科目)		—	14	32	0	—			29	13	5	0	0	—
学位又は称号		博士(農学)		学位又は学科の分野				農学関係、家政関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目14単位および選択科目8単位以上、合計22単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

授業科目の概要

（農学研究科 農学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	食農科学特論A	<p>（概要）食農科学がカバーする広範な領域について課題を整理するとともに、その将来像を議論する。農業生産科学領域については、気候変動や世界人口増および日本の少子高齢化に対応する最新の農業生産技術を講義するとともに、循環的農業の可能性を議論する。応用生物科学領域では、生物機能制御についての最新技術を整理し、食糧増産や環境保護、健康増進への展開を論ずる。また、食品栄養科学領域については、食の3機能の向上を目指した新しい試みを、食科学・栄養科学の視点だけでなく、食文化や食政策の視点からも分析し議論する。食農ビジネス学領域では、食料生産から流通、利用に至る多様な段階における諸問題を整理し、グローバル視点および地域視点からの対処法を考えるとともに、食と農が共生する新しい社会デザインについて考える。リレー講義を中心に諸課題や新知見を学びつつ、総合討論により学生自身が食農科学の諸課題を自立して考える能力を養成する。また、研究倫理に関する具体事例を紹介し、その意識を向上させる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（3 川崎 通夫、14 和田 大、21 水間 智哉、24 浦出 俊和／2回）（共同） イントロダクションとして、授業の目標や狙い、方法、評価のしくみや基準について解説する。最後に、総合討論を通して自立して考える能力を養成する。</p> <p>（8 椎名 隆／1回） 研究倫理および研究情報の取り扱いについて解説する。</p> <p>（3 川崎 通夫、5 佐藤 和広、7 玉置 雅彦／1回）（共同） 「農業生産科学の課題と未来」をテーマに、作物の生産と育種に関する現状、課題、展望について解説する。</p> <p>（1 浅尾 俊樹、6 佐野 修司／1回）（共同） 「農業生産科学の課題と未来」をテーマに、農業インフラと施設園芸に関する現状、課題、展望について解説する。</p> <p>（2 大澤 直哉、4 久保 康之／1回）（共同） 「農業生産科学の課題と未来」をテーマに、病害虫防除に関する現状、課題、展望について解説する。</p> <p>（8 椎名 隆、13 矢崎 潤史／1回）（共同） 「応用生物科学の課題と未来」をテーマに、植物バイオテクノロジーの課題と将来展望について解説する。</p> <p>（10 海道 真典、14 和田 大／1回）（共同） 「応用生物科学の課題と未来」をテーマに、微生物利用、微生物制御技術の課題と将来展望について解説する。</p> <p>（9 井上 亮、12 増田 太郎／1回）（共同） 「応用生物科学の課題と未来」をテーマに、動物、水産生物の機能制御と利用について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	食農科学特論A	<p>(15 安藤 真美、18 樽井 雅彦、19 平原 嘉親、21 水間 智哉／1回) (共同) 「食品栄養科学の課題と未来」をテーマに、食品の加工・調理・衛生と給食経営管理に関する現状、課題、展望について解説する。</p> <p>(20 藤林 真美、22 百木 和、23 山田 徳広／1回) (共同) 「食品栄養科学の課題と未来」をテーマに、代謝栄養と臨床栄養に関わる今日的課題と将来展望について解説する。</p> <p>(16 小川 俊夫、17 黒川 通典／1回) (共同) 「食品栄養科学の課題と未来」をテーマに、公衆衛生と公衆栄養に関わる今日的課題と将来展望について解説する。</p> <p>(24 浦出 俊和、26 成 耆政、30 吉井 邦恒／1回) (共同) 「食農ビジネス学の課題と未来」をテーマに、食料・農業・農村に関わる経済的諸問題と今後の政策課題について解説する。</p> <p>(28 種市 豊、29 山本 尚俊／1回) (共同) 「食農ビジネス学の課題と未来」をテーマに、食品産業・流通・マーケティングの今日的課題と将来展望について解説する。</p> <p>(25 北川 太一、27 田中 樹／1回) (共同) 「食農ビジネス学の課題と未来」をテーマに、食農共生に関する諸課題と将来展望について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	食農科学特論B	<p>(概要) 食農科学の最新トピックスについて、各分野の専門家のゲストスピーカーから学ぶ。特定の領域や課題を体系的に学ぶ「食農科学特論A」および各特論授業を補完し、最新知見に関する情報を広く学習し、修士研究に生かしていくことを目的とする。そのために、農学専攻を構成する4領域(農業生産科学領域、応用生物科学領域、食品栄養科学領域、食農ビジネス学領域)からセレクトしたトピックスに加え、領域を超えた最新科学のトピックスも学生に提供する。各回2名のゲストスピーカーから提供されるトピックスを中心に学ぶ。担当教員が、トピックスの解説やゲストスピーカーへの質問の仲介を行うことで、学生の理解を深める。さらに中間と最終の報告会を実施し、学んだ知識を学生が主体的に整理し発表することで、食農科学に関する最新知識を確実に身につける。報告会では、担当教員がファシリテーターとして論点の提示や、最新の知見の補足を行うことで、学生の科学的・論理的な思考能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 川崎 通夫、8 椎名 隆、14 和田 大、21 水間 智哉、24 浦出 俊和/3回) (共同) ガイダンス、中間報告会、最終報告会を担当する。</p> <p>(3 川崎 通夫/2回) ゲストスピーカーを招き、農業生産科学の現状と課題、新しい展開について解説する。</p> <p>(14 和田 大/2回) ゲストスピーカーを招き、応用生物科学の現状と課題、今後の展望について解説する。</p> <p>(21 水間 智哉/2回) ゲストスピーカーを招き、食品特性および食品の開発と技術、食品の健康機能について解説する。</p> <p>(24 浦出 俊和/2回) ゲストスピーカーを招き、地域農業の新しい展開、六次産業化の最新動向について解説する。</p> <p>(8 椎名 隆/4回) ゲストスピーカーを招き、農学と関係した生命科学、化学、健康科学、情報科学の現状について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	コミュニケーション英語	<p>本講義では、国際学術会議での英語による口頭発表やポスター発表について、発表セッションの進め方、発表時のビジュアルエイドの使い方、研究成果の効果的な英語での説明の仕方などを学ぶ。また、自分の興味ある研究について、専門的な英語を使って会話を展開する方法を学ぶ。英語で書かれた学術誌の記事を読み、研究テーマの可能性を探り、互いにアイデアを出し合い、オンライン学会の記録を見ることで、プレゼンテーションとディスカッションのスキルを身につける。最後の数週間、対面式とオンライン式の模擬学会に備え、自分の研究アイデアを仲間に発表する機会を設ける。本授業はすべて英語で行う。</p>	
	サイエンスプレゼンテーション演習	<p>学会や研究会において研究成果の発表や、研究論文をまとめるための基本事項を実践的に学ぶ。本講義では、受講者自身が文章執筆や、パワーポイント資料の作成、ポスター作成を演習形式で行うことで、実際の知識とスキルを修得する。科学論文を執筆する上での基本的ルール、発表用スライドやポスター作成のノウハウを学ぶとともに、研究成果を正しく伝えるために必要な、図やグラフのデザイン法、統計解析結果の表記法、色彩使用ルールなどについても学ぶ。また、科学的な文章を、論理的かつ正確に書いたり話したりする能力の習得にも特に力を入れる。本講義で学ぶ知識は、修士論文の作成のみならず、専門家として研究成果の社会発信にも役立つ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	アグリビジネス論	<p>(概要) 農学の研究が、アグリビジネスの第一線でのどのように展開され、実装されているかを、幅広い具体的事例を通じて学ぶ。そのために、企業や農業法人、行政などの現場で活躍するゲストスピーカーから、各業界の動向や今後の方向性なども含めて総合的な知識や見解を学ぶ。また、学生と質疑を通じた双方向性の授業を行うことで、実践的な知見を身につける。特に各業界の将来課題や、その解決を目指した研究課題などについて意見交換を行い、学生の発想やアイデアを引き出す工夫をする。担当教員は、トピックの解説やゲストスピーカーへの質問の仲介を行うことで、学生の理解を深める。また、担当教員がファシリテーターとして論点の提示や、知見の補足を行うことで、学生の科学的・論理的な思考能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 川崎 通夫/2回) 農業資材企業および農業生産法人よりゲストスピーカーを招き、肥料・農薬・農業資材・種苗等に関する企業のビジネスや、生産から加工・流通・販売までの戦略について解説する。</p> <p>(14 和田 大/2回) 酒類製造業やバイオ技術関連企業よりゲストスピーカーを招き、醸造微生物の研究と商品化やバイオエコノミー戦略について解説する。</p> <p>(21 水間 智哉/2回) 給食会社や中食産業関連企業よりゲストスピーカーを招き、ヘルスケアフードサービスのビジネスモデルや、中食商品の開発・販売と今後の展望について解説する。</p> <p>(24 浦出 俊和/2回) 食品流通業関連企業や自治体行政よりゲストスピーカーを招き、農産物・食品の流通チャンネルの多様化や、自治体における食農ビジネス支援の取り組みについて解説する。</p>	オムニバス方式
	アグリデータ解析特論	<p>農産物の生産や加工、流通の様々な場面において、ビッグデータの解析が重要になっている。勘や経験に頼ってきたこれまでの農業を脱却し、データに基づく効率的な生産・流通が期待される。本特論では、農業に関連する膨大なオンラインデータを分析・解釈し、ユーザーが利用できる集合知として体系化・知識化して、共通の知識として利用するための「知識ネットワーク構成技術」を習得する。知識ネットワーク構成技術において重要となる、膨大なデータから類似したアイテムを発見し、クラスタリングする方法や推薦する方法などの概要とその応用技術について講義および演習形式で学ぶとともに、実際のアグリデータに適用した解析演習を行う。</p>	集中

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	農業 生産 科学 領域	<p>生産生態基盤学特論</p> <p>(概要) 安定した作物生産のためには、生産現場における生態系を理解した上で適切な生産基盤を確保する必要がある。そこで本講義では、作物生産の基盤の一つである土壌や作物の養水分の利用を考えるうえで欠かせない植物生理の微視的観点から、最新の知見を紹介し作物と土壌の関わりについて理解する。さらに巨視的な観点から、栽培環境が作物生産に与える影響や農業生産と周辺の環境への関わりについても講義することで、生産性のみならず持続性の高い適切な生産基盤の確保のために必要な技術や知識を習得する。また、学術的な知見を作物栽培の現場で適用される技術や生じる各種問題と有機的に結びつけることにより、実践的な生産基盤の管理・維持に必要な問題解決能力の学修を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 佐野 修司/8回) 生産現場における土壌の役割、土壌調査・分析の方法と意義、農業生産と環境との関わりについて解説する。</p> <p>(45 高木 大輔/6回) 土壌栄養環境と植物生理応答、微気象と植物生理生態機能について解説する。</p> <p>(6 佐野 修司、45 高木 大輔/1回) (共同) 各自の研究テーマに関連した生産基盤の向上戦略のプレゼンテーションを学修する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	作物科学特論	<p>(概要) 禾穀類(イネ、コムギ、トウモロコシなど)、イモ類、マメ類は、人類が生存していく上で最も基幹的な農作物であり、地域から世界中に至るまで広く栽培されている。人類がこれらの作物を利用するには、農産物として収量や品質をしっかりと成立させることが重要である。しかし、作物の生産は、地域に限定した問題のみならず地球温暖化などのグローバルな問題によっても影響を受け、様々な課題を内包している。これらのことから、本授業では上記の主要農作物における形態・生理・生態、成長や環境応答の特性と仕組み、栽培・生産の特性と方法、農業課題と展望について学修し、収量と品質の成立を図るための作物科学に関する知識と考察力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 玉置 雅彦/8回) 禾穀類の種類・形質・成長・品質・品質・栽培・環境・農業課題について解説する。</p> <p>(3 川崎 通夫/7回) マメ類およびイモ類の種類と形質・栽培の環境と方法・農業課題について解説する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	園芸科学特論	<p>(概要) 野菜類、果樹類および花卉類といった園芸作物は世界中で食糧や嗜好品として栽培・利用されているとともに、地域の特産品としての地域資源の側面も併せ持つ。多様な分類群を含むこれらの園芸作物生産は消費者ニーズの多様化や気候変動等の環境変化といった課題に直面しており、持続可能な生産体制につながる技術開発を進めることが急務となっている。本授業では、各品目の生理生態的および遺伝的特性に関する知識を深め、生産現場に貢献できる考察力と課題解決能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 浅尾 俊樹、44 北村 祐人/2回) (共同) 園芸作物の自然および人為分類、園芸作物生産に関する総合討論について解説する。</p> <p>(1 浅尾 俊樹/7回) 野菜類の成長と発育・作型と栽培体系・施設栽培、花卉類の開花生理・品質評価について解説する。</p> <p>(44 北村 祐人/6回) 果樹類の栽培適地と栽植・生殖成長・果実発育生理・加工と利用、園芸作物の育種について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	応用昆虫学特論	<p>(概要) 地球温暖化や環境破壊が進行する中、農業生産物の安定した生産が今ほど求められている時代はない。環境に配慮した害虫管理は、安全で安定した農業生産のために、早急実現しなければならない地球規模の緊急課題である。本講義では、まず、地球上で最も繁栄し種多様性の高い昆虫進化の概要を理解し、昆虫の生物としての特性を学習する。それら昆虫に対する基礎的な理解を深めた上で、害虫管理に不可欠な、化学分析・分子遺伝学的な手法など先端知識・技術、および生態学的研究手法を学び、総合的害虫管理に必要な知識を講義する。本講義は、それら様々な総合的害虫管理手法を学習した上で、環境配慮型害虫個体群管理を実現できる基礎的能力を養成することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(33 藤井 毅/7回) ヒトと昆虫の結びつき、昆虫の構造・生物学・化学交信系・脳、微量化学分析の基礎について解説する。</p> <p>(2 大澤 直哉/8回) 昆虫の脳・系統進化の概要・形態進化・分類、昆虫個体群生態学、害虫総合防除について解説する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	農業生産科学領域 植物病理学特論	<p>(概要) 植物は環境中に存在する植物病原菌(菌類、細菌、ウイルス等)からの感染の脅威に絶えず晒されている。また食のグローバル化に伴い、輸出入される農産物に付随した侵入病害、ポストハーベスト病害など地球規模での植物保護の課題も顕在化している。本講義では世界的に問題となっている植物疾病について、最先端の研究動向を把握するとともに最新の知見を吸収し、持続可能な農業生産に向けた病害防除のあり方について探究することを目的とする。植物の免疫システムと病原菌の病原性メカニズムの双方における分子基盤を理解し、植物病理学に関する知識と考察力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 久保 康之、31 飯田 祐一郎/1回) (共同) 植物疾病と病原菌についてガイダンスを実施する。</p> <p>(4 久保 康之/7回) 病原菌の病原性機構、植物の抵抗性機構、パンデミック病害について解説する。</p> <p>(31 飯田 祐一郎/7回) 病原菌の病原性機構、植物の抵抗性機構、化学的防除、バイオコントロールについて解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	植物遺伝育種科学特論	<p>(概要) 人類はこれまで様々な植物を利用することで生活を営んできた。その過程で、育種により植物の特徴を変化させることで、より利用しやすい品種へと改良を行ってきた。地球規模で見ると人口の増加による食糧供給量の不足や環境の急激な変化への対応を迫られており、一方、我が国では人口減少によって就農者が不足し、効率的なスマート農業への早急な切り替えが迫られている。これらの課題を解決するために、収量や作業効率の高い作物の開発が急務となっている。また、嗜好の多様化により、広範な特徴のある作物が求められている。そこで本講義では、従来より行われている交配育種や遺伝資源を活用するための知識に加え、急速に発展している分子生物学やゲノム科学の最新の知見について学修し、育種利用について議論することで考察する力や社会問題を解決する力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 佐藤 和広/8回) 品種改良と植物育種学、植物の栽培化、ゲノム解析とゲノム情報の利用、植物遺伝資源の保存と開発、DNA多型の育種利用、植物育種が目指すもの(多収性と早晩性、食味、品質、成分)について解説する。</p> <p>(32 牛島 智一/7回) 遺伝子と形質、生殖様式の違いと育種、育種における質的形質と量的形質、遺伝変異の利用、遺伝子機能の解析と利用、植物育種が目指すもの(環境ストレス耐性、病虫害抵抗性)について解説する。</p>	オムニバス方式
	農業生産科学演習 I	<p>本授業では、農業生産科学分野における自身の研究の遂行能力を高めるための演習を行う。自身の研究に関連する国内外の先行研究、類似研究に関する文献調査を行い、討論を行うことが中心となる。研究方法の立案、修正が自分でできるように、研究手法に関する情報収集法も身につけ、研究上の課題および解決方法を自ら見つけられるようする。また、研究に関する深い理解のため、関連する分野の研究についても幅広く文献講読を行う。本演習を通じて、学術的造詣を深めるだけでなく、研究遂行上の課題解決能力、実践力、プレゼンテーション能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	農業生産科学演習Ⅱ	本授業では、研究の高度な遂行能力を修得するための演習を行う。各自の修士論文研究に関連する分野について、最新情報を収集する方法を学ぶとともに、国内外の課題を理解し最新の研究方法を修得する。最新の研究論文を読解して、各自の研究の論理的、効果的進展に役立てることを目標とする。また、収集した研究情報を基に最新の研究動向や重要課題の分析を行い、レビューとしてまとめる演習にも取り組む。最終的に、農業生産科学分野の研究論文を執筆し、分かりやすくまとめる基本的能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。	
応用生物科学領域	植物分子生理学特論	<p>(概要) 植物細胞の最大の特徴は葉緑体(色素体)を持つことである。葉緑体は光合成を担うとともに、アミノ酸、脂質やホルモン合成にも関係し、植物細胞に必須のオルガネラである。また、組織に応じて多彩な形態と機能を有する色素体に分化する多能性も有している。本講義では、光合成の分子機構とその制御、光合成のストレス応答、葉緑体タンパク質の品質保証、色素体の分化や遺伝子発現制御などのトピックスを取り上げ、色素体の機能と進化について総合的に解説する。また、葉緑体遺伝子工学による植物機能の向上など最先端の研究例も取り上げ、色素体を中心とした植物分子生理学の現状と将来の方向性についても論じる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 椎名 隆/8回) 葉緑体の概要、葉緑体ゲノムと進化、葉緑体の遺伝子発現制御、葉緑体の細胞内コミュニケーション、葉緑体遺伝子工学について解説する。</p> <p>(34 加藤 裕介/7回) 光合成の分子機構・ストレス応答、色素体の分化、葉緑体タンパク質の品質保証について解説する。</p>	オムニバス方式
	ゲノム生物学特論	<p>(概要) 近年における大規模シーケンス技術の発達により、今や多種多様な生物のゲノム情報や大量の遺伝子発現情報を短期間で取得することができる。本授業では、ゲノムと遺伝子発現に関する包括的解析(オミクス解析)手法について解説し、生命科学の研究・開発で、ゲノム情報がどのように利用されているのかを紹介する。またプレゼンテーション、討論を通じて各オミクス解析について理解を深め、ゲノム情報を活用する上で基盤となる知識と考え方を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 矢崎 潤史、36 松尾 充啓/3回) (共同) ゲノム情報を用いる研究・開発について概説し、中間まとめ、最後の総合討論およびプレゼンテーションを担当する。</p> <p>(13 矢崎 潤史/6回) エピゲノム解析、プロテオーム解析について解説する。</p> <p>(36 松尾 充啓/6回) ゲノム解析、トランスクリプトーム解析について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 応用生物学領域	植物環境微生物学特論	<p>(概要) 微生物類と植物は、信号分子や栄養分のやり取りを通じて寄生から相利にまで至る共生関係を構築する。本授業では、ウイルスと糸状菌を中心に、微生物類が宿主植物への侵入・増殖、すなわち感染を成立させるための戦略について、また植物が寄生性の微生物類を排除あるいは増殖を抑制する抵抗性戦略について講義を行う。学部で学んだ知識や概念を基盤として、最新の研究結果を取り入れつつ、微生物類と植物との様々な相互作用について検討する。さらに、自分の研究と関連させた考察なども行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 海道 真典/7回) 植物ウイルスの概説・増殖戦略・移行戦略、抗ウイルス抵抗性戦略について解説する。</p> <p>(35 田中 茂幸/7回) 植物に定着する糸状菌の概説・形態、糸状菌のタンパク質分泌機構、植物細胞による糸状菌の認識、糸状菌に対する植物細胞の変化について解説する。</p> <p>(10 海道 真典、35 田中 茂幸/1回) (共同) 総合討論とプレゼンテーションを担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	応用微生物学特論	<p>(概要) 私たちの食や農と微生物との間には密接な関係がある。その関係を理解し、人類に役立てるための学問が応用微生物学である。本授業では、原核微生物、真核微生物を問わず、微生物を用いた有用物質生産について応用微生物学の観点から講義を行う。広く微生物による1次代謝、2次代謝産物の生産を概説した後、学部で学んだ関連する科目で得た知識や概念を基盤として、アミノ酸や生物活性物質などの特定の有用物質についての新たな微生物生産の方法について検討する。さらに、自分の研究と関連させた考察なども行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 加藤 直樹/6回) 微生物・放線菌・糸状菌による生物活性物質生産、生物活性物質の生合成について解説する。</p> <p>(14 和田 大/8回) 微生物による物質生産、微生物酵素による物質生産、新しい物質生産方法について解説する。</p> <p>(11 加藤 直樹、14 和田 大/1回) (共同) 総合討論とプレゼンテーションを担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 生物 科学 領域	動物機能科学特論	<p>(概要) 動物に関わる研究は非常に多岐にわたる。動物に関わる研究分野としてイメージしやすいのは畜産や獣医学かもしれないが、我々ヒトも動物である以上、食品や医学・薬学なども動物に関わる研究分野といえる。本授業では、これらの動物に関わる研究分野の最新の動向を学修すると共に、本分野の現状の課題や展望を解説する。これにより、自身が将来取り組む、または取り組みたいと考える研究をどう活かすかを受講者自身が考察できるようになることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 井上 亮/8回) 動物に関わる研究分野、畜産・食品・医学の研究動向、コンパニオン・アニマルの研究動向、動物に関わる企業研究の動向について解説する。</p> <p>(37 芳本 玲/7回) 分子生物学の歴史、mRNA スプライシング暗号の解読、RNA 解析技術、スプライシングと疾患、核酸医薬の研究動向(基礎・応用)や企業研究の動向について解説する。</p>	オムニバス方式
	海洋生物学特論	<p>(概要) 系統分類学的にきわめて多様な海洋生物について、特に水産重要種に焦点を絞り、その生理生化学的側面から系統分類、生態学的な知見を紹介する。また、古典的、伝統的な実験・研究手法から、最新の解析手法まで、当該分野の研究史を振り返りながら概説する。本講義では、特に日本近海の水産資源の動向と利用状況、内水面漁業の歴史と重要種の生態と保全に関する知識を習得することを目的とする。また、技術として、水圏生物の計測、標本作製法と水産物の成分に関する分析法・生化学的実験法について習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 増田 太郎/7回) 水産重要種の博物学から利用学、海洋生物のタンパク質、水産重要種各論(甲殻類、サケ・マス類)について解説する。</p> <p>(46 國島 大河/7回) 魚類標本作製法、魚類の外部形態観察および種同定・生活史の多様性、生活史特性の調査手法、魚類群集解析について解説する。</p> <p>(12 増田 太郎、46 國島 大河/1回)(共同) 総合討論とプレゼンテーションを担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	応用生物科学演習 I	<p>本授業では、応用生物学分野における自身の研究の遂行能力を高めるための演習を行う。自身の研究に関連する国内外の先行研究、類似研究に関する文献調査を行い、討論を行うことが中心となる。研究方法の立案、修正が自分で行えるように、研究手法に関する情報収集も身につけ、研究上の課題および解決方法を自ら見つけられるようする。また、研究に関する深い理解のため、関連する分野の研究についても幅広く文献講読を行う。本演習を通じて、学術的造詣を深めるだけでなく、研究遂行上の課題解決能力、実践力、プレゼンテーション能力を養う。</p>	
	応用生物科学演習 II	<p>本授業では、研究の高度な遂行能力を修得するための演習を行う。各自の修士論文研究に関連する分野について、最新情報を収集する方法を学ぶとともに、国内外の課題を理解し最新の研究方法を修得する。最新の研究論文を読解して、各自の研究の論理的、効果的進展に役立てることを目標とする。また、収集した研究情報を基に最新の研究動向や重要課題の分析を行い、レビューとしてまとめる演習にも取り組む。最終的に、応用生物学分野の研究論文を執筆し、分かりやすくまとめる基本的能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食品学・食品衛生学特論	<p>(概要) 食品素材・食品の特性を理解するために必要な基礎知識として、食品の一次機能、二次機能、三次機能、および各構成成分の化学構造や化学的特性について講義する。また、生体への各成分の吸収、代謝等の栄養機能および生体調節機能について概説する。食品衛生学に関して、食品の生産・製造加工・保存・流通・調理段階における病原微生物、自然毒、汚染物質、食品添加物などの危害要因(ハザード)の存在を理解し、科学的根拠(エビデンス)に基づいて食品衛生上の予防・対策が講じられる知識、判断力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 平原 嘉親/7回) 食品の定義、食品のリスク、食品の腐敗、酸敗の原因・判別方法・予防法、食中毒(細菌性、ウイルス性、自然毒)、有害物質による食品汚染、食品添加物、遺伝子組み換え食品、ゲノム編集食品、食品器具・容器包装、洗浄剤の安全性について解説する。</p> <p>(21 水間 智哉/7回) 食品機能の定義・分類と歴史、食品の一次機能(食品に含まれる水分・たんぱく質・脂質・炭水化物・ビタミン・ミネラル)、二次機能(食品の呈味・香り・色素成分、テクスチャー)、三次機能(食品の機能性成分と生体調整機能、特定保健用食品)について解説する。</p> <p>(19 平原 嘉親、21 水間 智哉/1回)(共同) 討議を通して全体の振り返りを担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	調理・給食経営管理特論	<p>(概要) 現代において「なぜ調理学が必要なのか」「どういった点を改善していくべきか」などの問題意識と、改善策に関する包括的な思考ができる能力を養うことを目的とする。具体的には、調理操作による食品の栄養・嗜好性・機能性の変化について講義をしながら調理学の役割と改善点、それに対する解決策について概説する。給食施設における管理栄養士の業務を理解するため、給食運営や経営の方法を習得することを目的とする。具体的には、関連法規、栄養食事管理、食材料管理、原価管理、品質管理、情報管理など、管理栄養士が給食におけるマネジメントを行うために必要な知識と技能を習得する。また、次世代食事提供システムの運営方法についても理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 安藤 真美、18 樽井 雅彦/2回)(共同) ガイダンス、最後の討議を通して全体の振り返りを担当する。</p> <p>(15 安藤 真美/6回) おいしさと調理による変化、非加熱調理・加熱調理による変化、調理による植物性食品の変化、環境問題に配慮した調理のあり方について解説する。</p> <p>(18 樽井 雅彦/7回) 給食経営管理、栄養管理・食事管理・品質管理、生産(原価計算)、生産(調理)と提供方法、給食の安全・衛生管理の概要、生産(調理)施設・設備設計、食事環境の設計と設備、給食の人事・事務(労務)管理について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食品栄養科学領域	<p>(概要) 栄養素とエネルギー収支のバランスが崩れると、メタボリックシンドロームという代謝異常を中心とした生活習慣病を誘引する。本講義では、健康な生活を送るための栄養素の代謝の基礎的知識を理解する事を目的とする。概要としては、栄養素とエネルギー収支のバランスとメタボリックシンドロームとの関係を理解し、その後、消化・吸収とその調節機構、各栄養素の代謝と栄養、栄養素の相互作用、最後に、腸内細菌が栄養素の代謝と栄養に及ぼす影響について食物繊維・難消化性糖質を中心に理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 山田 徳広、39 岸本 良美/3回) (共同) 栄養素とエネルギー収支のバランスとメタボリックシンドローム、主要栄養素(三大栄養素)の相互関係とエネルギー代謝、食物繊維・難消化性糖質の代謝と栄養について解説する。</p> <p>(23 山田 徳広/6回) 消化吸収機能、たんぱく質・アミノ酸の代謝と栄養、水の代謝と働き、食物繊維・難消化性糖質の代謝と栄養について解説する。</p> <p>(39 岸本 良美/6回) 糖質の代謝と栄養、脂質の代謝と栄養、ビタミンの代謝と栄養について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	臨床栄養学特論	<p>(概要) 生活習慣病などの慢性疾患、術後や食欲不振などによる低栄養の患者において、治療としての食事療法は重要である。また、経口摂取が不可能な場合、経腸栄養や静脈栄養などの栄養療法が必要不可欠とされている。症例における疾患別の栄養管理について理解し、栄養管理の過程である栄養管理プロセスおよび栄養ケア・マネジメントにおいても理解を深める。また、病態栄養に関する与えられたテーマあるいは自らが興味をもつテーマに関して、事前学習により作成したプレゼンテーションを各自発表し、討論、評価を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 百木 和/7回) オリエンテーション、各自の研究紹介。症例に基づく栄養サポート(介護施設)、統計解析手法、臨床栄養学分野の学術論文のプレゼンテーションとディスカッション、課題発見と研究の進め方について解説する。</p> <p>(38 畦西 克己/7回) 症例に基づく栄養サポート(糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病、肝硬変、脳血管疾患、術前術後、がん放射線化学療法)について解説する。</p> <p>(22 百木 和、38 畦西 克己/1回) (共同) 症例に基づく栄養サポートの症例のうち、1症例についてプレゼンテーションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 食品 栄養 科学 領域	公衆衛生・公衆栄養学特論	<p>(概要) 本講義では、健康を維持・向上させるための保健、医療、福祉、環境など公衆衛生・公衆栄養全般を学修するなかで、健康の概念や医療保険制度、健康づくりや疾病対策の考え方や取り組みについて理解したうえで、医療データを活用した公衆衛生学研究の実施方法や課題について把握する。また、健康・疾病に関わる各種統計資料、健康状態・疾病の測定と評価、健康情報の利用と管理、処理について理解する。さらに国内外の健康・栄養問題について総合的に評価・判定する能力を養い、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価について理解するとともに、総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 小川 俊夫/7回) 公衆衛生学概論、保健統計と医療政策、医療保険制度、健康づくり、メタボ対策、がん対策、医療ビッグデータについて解説する。</p> <p>(17 黒川 通典/7回) 公衆栄養学の概念・沿革、食生活の変化、諸外国の健康栄養問題と栄養施策、栄養疫学のための食事調査、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムについて解説する。</p> <p>(16 小川 俊夫、17 黒川 通典/1回) (共同) 発表を通じて全体の振り返りを担当する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	生化学・運動生理学特論	<p>(概要) 栄養素や食品成分の吸収と体内動態において、細胞膜のトランスポーターは重要な役割を果たしている。授業計画の前半では、トランスポーターの構造や生化学的特徴、生理学的役割、創薬標的としての有用性などに関する知識の習得と論理的思考力の向上を目指す。授業計画の後半では、身体活動により生体内にどのような変化が起こるのか、その現象としくみを学修する。また、運動による生体の適応・健康の保持増進、運動時における栄養摂取に関する知識と考察力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 藤林 真美、47 小林 直木/1回) (共同) 栄養素・食品成分の吸収と体内動態の概要、生化学から生理学へのつながりを解説する。</p> <p>(20 藤林 真美/7回) 骨格筋の構造と機能、筋力と筋パワー、運動時の代謝、運動時のホルモン分泌、筋肥大と萎縮、運動と呼吸・循環、運動と認知機能・生活習慣病について解説する。</p> <p>(47 小林 直木/7回) トランスポーター構造と生化学的特徴、発現組織、糖・アミノ酸・核酸・脂質・ビタミン・ミネラルトランスポーターの機能と生理学的役割、トランスポーターと疾患・創薬について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	食品栄養科学演習 I	<p>本授業では、食品栄養科学分野における自身の研究の遂行能力を高めるための演習を行う。自身の研究に関連する国内外の先行研究、類似研究に関する文献調査を行い、討論を行うことが中心となる。研究方法の立案、修正が自分でできるように、研究手法に関する情報収集法も身につけ、研究上の課題および解決方法を自ら見つけられるようする。また、研究に関する深い理解のため、関連する分野の研究についても幅広く文献講読を行う。本演習を通じて、学術的造詣を深めるだけでなく、研究遂行上の課題解決能力、実践力、プレゼンテーション能力を養う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食品栄養科学演習Ⅱ	本授業では、研究の高度な遂行能力を修得するための演習を行う。各自の修士論文研究に関連する分野について、最新情報を収集する方法を学ぶとともに、国内外の課題を理解し最新の研究方法を修得する。最新の研究論文を読解して、各自の研究の論理的、効果的進展に役立てることを目標とする。また、収集した研究情報を基に最新の研究動向や重要課題の分析を行い、レビューとしてまとめる演習にも取り組む。最終的に、食品栄養科学分野の研究論文を執筆し、分かりやすくまとめる基本的能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。	
	食農ビジネス学領域 農業経済・経営・政策特論	<p>(概要) 本科目では、農と食に関するミクロ経済動向や国民経済における農と食の位置づけ、農業生産経済理論、農産物市場の特徴と価格形成、農業経営とアグリビジネス、日本の農業政策(農地政策、農業政策、農業経営安定政策)、農産物貿易交渉、先進国の農業政策(農業経営安定政策、地域政策、環境政策)等に関する講義とプレゼンテーション・ディスカッションを通じて、日本の食料・農業・農村の現状を分析し、そのあり方を考察するために必要な農業経済と農業政策に関する知識とデータ解析・モデル化に関する手法を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(26 成 春政、30 吉井 邦恒/2回) (共同) 国民経済における農業の位置と役割および日本の農業の将来展望と農業政策の展開方向について解説する。</p> <p>(26 成 春政/6回) 国民経済計算と農業、農産物価格理論、農産物生産経済理論、アグリビジネス理論について解説する。</p> <p>(30 吉井 邦恒/7回) 農業政策史、農地政策、担い手政策、農業経営安定対策、農産物貿易と国際交渉、農業政策の国際比較について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	食品産業・流通特論	<p>(概要) 現在、日本の食料供給をみると生産から消費までの間で多段階化しており、消費形態も多様化している。日本国内の食料最終消費額が、食用農林水産物生産段階の産出額の6倍に相当しており、この大きな差額すなわち総付加価値額を創り出しているのは、食品加工業や食品を取り扱う卸売・小売業などを含んだ「食品産業」といえよう。本科目では、食料・農産物の市場と流通を中心に、食品産業がどのように関わっているのか、講義または国内外の先行研究のレビューを通じて考察する。前半は、食品の中間流通業や小売流通業について生鮮食料品を取り上げて討議する。後半は、食品加工(製造)業について原料農産物と加工食品を取り上げて討議する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(29 山本 尚俊、48 戴 容秦思/1回) (共同) 本授業の内容概要と進め方についてガイダンスを実施する。</p> <p>(29 山本 尚俊/7回) 食品産業の基礎構造、生鮮食料品の中間流通とその変化、生鮮食料品の小売流通と川下規定について解説する。</p> <p>(48 戴 容秦思/7回) 食品産業と原料農産物市場、農産物市場の発展と統合、加工農産物の市場と流通について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食農ビジネス学領域 地域マネジメント特論	<p>(概要) 農林業の基盤である農村地域において「地域活性化」は重要な課題の一つであり、地域資源の有効な利活用や適正な管理、地域活性化支援策の策定・実施といった地域マネジメントが必要不可欠である。本講義では、公共経済学の基礎理論を援用して、地域マネジメントの対象である地域資源の経済的特性や、地域資源のローカル・コモنزとしての管理のあり方について講義する。また、地域資源の継承、イノベーション、ツーリズム、六次産業化という点から地域活性化支援策を取り上げ、その実態と問題について講義する。さらに、地域活性化の取り組みを行っている自治体を取り上げ、地域マネジメントの実態や課題についての考察を通じて、地域マネジメントのあり方について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(24 浦出 俊和/6回) 地域活性化と地域資源、市場の失敗と公共財、地域資源の公共財的特性、地域資源の外部性、コモنز論、地域資源としてのローカル・コモنزについて解説する。</p> <p>(40 川崎 訓昭/5回) 地域農業デザイン、地域資源の継承、地域におけるイノベーションの創出、ツーリズムを活用した地域活性化、六次産業化と地域活性化について解説する。</p> <p>(24 浦出 俊和、40 川崎 訓昭/4回) (共同) 自治体における地域活性化策、地域マネジメントのあり方について検討する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	食農・循環型農業特論	<p>(概要) 食農・循環型農業は、食と農の起点となる農耕地の管理、資源循環、生態系保全、生産物の特性とマーケティング、都市域および農村域での生業形成や活性化などを循環論的な視点で幅広く扱う学術領域である。本授業では、農耕地生態系の特徴や成り立ち、物質循環と持続性、土地資源の管理と荒廃環境の修復、生産者と消費者の認識、生産物の市場と流通構造、制度や政策、農業関連産業の振興、地域活性化への織り込みなど食農・循環型農業をめぐる基礎知識や国内外のさまざまな実践事例についての理解を深め、議論し、その未来像を考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 田中 樹、42 谷口 葉子/2回) (共同) 授業ガイダンス、食農・循環型農業および資源・生態環境と人間活動との共生の未来像についての総合討論を行う。</p> <p>(27 田中 樹/6回) 農耕地生態系の特徴と構成要素、農耕地生態系における物質循環、農耕地生態系の管理技術、資源・生態環境の劣化と修復を解説し、グループ討論を通して地域活性化への適用を考える。</p> <p>(42 谷口 葉子/7回) 食農・循環型農業における思想と系譜・市場と流通・購買とマーケティング・制度と政策、農・循環型農業の消費者の心理を解説し、グループ討論を通して循環型農業の社会的意義を考える。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食品マーケティング特論	<p>(概要) 農水産物を含めた食品マーケティング戦略の実証研究は少しずつ進んでいるが、理論化の構築が重要な課題として挙げられている。多様化する現代の食品マーケティングの実態を解明するには、食料市場論をふまえた上で、いくつもの課題を体系化し、新たな理論のフレームワークを構築していくことが必要である。以上から、本科目では、食品マーケティングに関する理論のフレームワークの構築をするべく、講義または国内外の先行研究のレビューを通じて理論の体系化について考察していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 種市 豊、41 副島 久実/1回) (共同) 本授業の内容概要と進め方についてイントロダクションを行う。</p> <p>(28 種市 豊/7回) 食料市場の捉え方、農水産物の市場、食品の市場、農水産物・食品の流通とロジスティクス、食料消費と食生活、消費者行動の変化、食料市場論の課題と理論化について解説する。</p> <p>(41 副島 久実/7回) マーケティング論の理論とその応用、食品マーケティング、農水産物マーケティング、農水産物の主体別マーケティング、農水産物を含めた食品マーケティングの課題と理論化について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	都市・農村コミュニティビジネス特論	<p>(概要) 近年、地域経済の停滞や社会の空洞化さらには自然環境の荒廃が進む中で、地域における食や農、資源を活用し、さまざまな人や組織が主体的に関わる小規模な事業(コミュニティビジネス)を起こすことによって、地域の課題解決を図ろうとする取り組みがみられる。本講義では、こうした都市および農村、さらには都市農村交流型のコミュニティビジネスに焦点をあてて、理論や政策・制度、主体(担い手)について講述し、実際のケースを取り上げて受講生とともにディスカッションを行いながら、これからの望ましいコミュニティビジネスの姿を展望・デザインする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 北川 太一/7回) コミュニティビジネスの概念、コミュニティビジネスに関する政策・制度、コミュニティビジネスを担う主体、コミュニティビジネスと協同組合、コミュニティビジネスのマネジメントと課題について解説する。</p> <p>(43 中塚 華奈/7回) コミュニティビジネスと NPO 活動・地域活性化・農福連携・教育・人材育成、コミュニティビジネスのニーズとシーズ・企画立案・企画ツール作成について解説する。</p> <p>(25 北川 太一、43 中塚 華奈/1回) (共同) コミュニティビジネスの企画案のプレゼンテーションを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	食農ビジネス学演習 I	<p>食農ビジネス学は、農業経済・経営・政策に関わる分野、食品産業・流通・マーケティングに関わる分野、食農共生に関わる分野など多様な専門分野から構成されており、これらの分野における実態を客観的に把握するとともに、多様な理論、調査・分析手法を修得しなければならない。本授業では、食農ビジネス学領域における先行研究の文献検索方法、文献・学術論文のレビュー・サーベイ方法、調査・分析手法の修得を通じて専門的な研究を遂行する基礎的能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	食農ビジネス学演習Ⅱ	食農ビジネス学は、農業経済・経営・政策に関わる分野、食品産業・流通・マーケティングに関わる分野、食農共生に関わる分野など多様な専門分野から構成されており、これらの分野における諸課題についての専門的な研究を遂行する上では、実態を客観的に把握するとともに、研究の学術上および社会上の必要性や、既存の先行研究の到達点を明らかにした上で、自身の研究課題を明確にすることが必要である。さらに、多様な理論、調査・分析手法の中から、自身の研究課題に適したものを選択し、修得しなければならない。本授業では、まず、専門科学論文の書き方を修得するとともに、質疑討論を通じて自身の研究テーマと研究計画について検討する。さらに、先行研究の文献・学術論文のレビュー・サーベイを行い、自身の研究を進めるための理論、調査方法、分析手法についての知見を蓄積し、食農ビジネス学領域における諸問題の解決や調査・研究を遂行するための能力と実践力、プレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。	
特 別 研 究 科 目	農学特別研究Ⅰ	<p>(概要)「農学特別研究Ⅰ」では、学生が教員と議論しながら主体的に、研究課題の明確化、研究計画の立案、調査方法・分析手法の確立、適切なデータ収集を行うことで、新規性と独自性を有した専門性の高い修士論文を作成するための研究を進める。適宜、研究の進捗状況や研究計画について教員と議論し、検討・確認を行う。これらの研究活動を通じて、専門分野に関する高度な専門知識・技術を習得し、農学の諸問題の解決や社会の発展に貢献するための研究能力と実践力を涵養する。</p> <p>(1 浅尾 俊樹) 園芸植物の自家中毒と植物工場による機能性食品の生産に関する研究を指導する。</p> <p>(2 大澤 直哉) 昆虫個体群管理のための応用昆虫学に関する研究を指導する。</p> <p>(3 川崎 通夫) 作物における機能形態と環境応答に関する研究を指導する。</p> <p>(4 久保 康之) 植物病原菌の病原性と感染器官の形態形成に関する研究を指導する。</p> <p>(5 佐藤 和広) 植物の遺伝変異と育種に関する研究を指導する。</p> <p>(6 佐野 修司) 有機物動態に着目した都市近郊における土壌機能の解明と活用を研究指導する。</p> <p>(7 玉置 雅彦) 生産性が高く環境に優しい作物栽培に関する研究を指導する。</p> <p>(8 椎名 隆) 植物機能の光合成制御メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(9 井上 亮) ヒトや動物の腸の機能・役割に関する研究を指導する。</p> <p>(10 海道 真典) 植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と防除技術開発に関する研究を指導する。</p> <p>(11 加藤 直樹) 糸状菌による生理活性物質生産メカニズムに関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究 I	<p>(12 増田 太郎) 水圏生物の適切な利用と保全を目指した研究を指導する。</p> <p>(13 矢崎 潤史) 植物細胞の包括的生化学解析による植物機能に関する研究を指導する。</p> <p>(14 和田 大) ビフィズス菌アミノ酸代謝酵素の機能解析、新規有用酵母探索に関する研究を指導する。</p> <p>(15 安藤 真美) 調理操作による食品の栄養・嗜好性・機能性の変化に関する研究を指導する。</p> <p>(16 小川 俊夫) 医療ビッグデータを用いて食習慣と健康との関連を明らかにする研究を指導する。</p> <p>(17 黒川 通典) 地域住民の食生活が健康に与える影響に関する研究を指導する。</p> <p>(18 樽井 雅彦) 次世代の調理技術・給食提供システムおよび在宅への配食に関する研究を指導する。</p> <p>(19 平原 嘉親) 食品中に残留する有害物質の安全性確保に関する研究を指導する。</p> <p>(20 藤林 真美) ヒトの QOL 向上に向けた栄養と運動トレーニングに関する研究を指導する。</p> <p>(22 百木 和) 高齢者の健康寿命延伸を目指した栄養サポートに関する研究を指導する。</p> <p>(23 山田 徳広) n-3 系脂肪酸と n-6 系脂肪酸の代謝と摂取バランスに関する研究を指導する。</p> <p>(24 浦出 俊和) 農村地域における地域資源の適正管理・利活用に関する研究を指導する。</p> <p>(25 北川 太一) 集落型農業法人の展開および協同組合の組織・事業に関する研究を指導する。</p> <p>(26 成 耆政) 農業におけるソーラーシェアリングを活用したビジネスモデルに関する研究を指導する。</p> <p>(27 田中 樹) 少子高齢化地域での潜在性の発掘と活性化への実践展開に関する研究を指導する。</p> <p>(28 種市 豊) 農産物輸送の問題と食品ロスに関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究 I	<p>(29 山本 尚俊) 卸売市場制度の改革と水産物流通の変容・再編に関する研究を指導する。</p> <p>(30 吉井 邦恒) 農業のリスクに対応したセーフティネット政策の国際比較に関する研究を指導する。</p> <p>(31 飯田 祐一郎) 植物病原菌の病原性と生物防除機構に関する研究を指導する。</p> <p>(32 牛島 智一) 育種利用のための遺伝子機能解析と遺伝資源開発に関する研究を指導する。</p> <p>(33 藤井 毅) 昆虫の交信系に関する化学生態学的研究を指導する。</p> <p>(34 加藤 裕介) 光合成タンパク質の品質管理機構に関する研究を指導する。</p> <p>(35 田中 茂幸) 植物寄生性糸状菌の植物成長制御メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(36 松尾 充啓) ゲノム進化の原理に関する研究を指導する。</p> <p>(37 芳本 玲) スプライシング制御 RNA に関する研究を指導する。</p> <p>(38 畦西 克己) 咀嚼および嚥下機能低下における機能性食品を用いた臨床研究を指導する。</p> <p>(39 岸本 良美) 食品に含まれる栄養・機能性成分による代謝性疾患予防に関する研究を指導する。</p> <p>(40 川崎 訓昭) 先進的農業経営体の経営発展に関する研究を指導する。</p> <p>(41 副島 久実) 農水産物・食品の流通とマーケティングに関する研究を指導する。</p> <p>(42 谷口 葉子) オーガニック等のサステイナブルな食の取り組みに関する研究を指導する。</p> <p>(43 中塚 華奈) 持続可能な社会形成にむけた食農教育とナッジに関する研究を指導する。</p> <p>(44 北村 祐人) 落葉果樹の生殖形質および温度要求性に関する研究を指導する。</p> <p>(45 高木 大輔) 陸上植物の生育環境に対する光合成反応制御機構に関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究Ⅰ	<p>(46 國島 大河) 水圏生物の生態学および生活史に関する研究を指導する。</p> <p>(47 小林 直木) 細胞膜トランスポーターを介した脂質輸送に関する生化学的研究を指導する。</p> <p>(48 戴 容秦思) 国内外の農畜産物の市場・流通に関する研究を指導する。</p>	
	農学特別研究Ⅱ	<p>(概要)「農学特別研究Ⅱ」では、学生が教員と議論しながら主体的に、研究課題の明確化、研究計画の立案、調査方法・分析手法の確立、適切なデータ収集を行うことで、新規性と独自性を有した専門性の高い修士論文を作成する。また、研究の内容・成果を報告会においてプレゼンテーションし、質疑応答や討論を行う。これらの研究活動を通じて、専門分野に関する高度な専門知識・技術を習得し、農学の諸問題の解決や社会の発展に貢献するための研究能力と実践力を身に付ける。</p> <p>(1 浅尾 俊樹) 園芸植物の自家中毒と植物工場による機能性食品の生産に関する研究を指導する。</p> <p>(2 大澤 直哉) 昆虫個体群管理のための応用昆虫学に関する研究を指導する。</p> <p>(3 川崎 通夫) 作物における機能形態と環境応答に関する研究を指導する。</p> <p>(4 久保 康之) 植物病原菌の病原性と感染器官の形態形成に関する研究を指導する。</p> <p>(5 佐藤 和広) 植物の遺伝変異と育種に関する研究を指導する。</p> <p>(6 佐野 修司) 有機物動態に着目した都市近郊における土壌機能の解明と活用を研究指導する。</p> <p>(7 玉置 雅彦) 生産性が高く環境に優しい作物栽培に関する研究を指導する。</p> <p>(8 椎名 隆) 植物機能の光合成制御メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(9 井上 亮) ヒトや動物の腸の機能・役割に関する研究を指導する。</p> <p>(10 海道 真典) 植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と防除技術開発に関する研究を指導する。</p> <p>(11 加藤 直樹) 糸状菌による生理活性物質生産メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(12 増田 太郎) 水圏生物の適切な利用と保全を目指した研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究Ⅱ	<p>(13 矢崎 潤史) 植物細胞の包括的生化学解析による植物機能に関する研究を指導する。</p> <p>(14 和田 大) ビフィズス菌アミノ酸代謝酵素の機能解析、新規有用酵母探索に関する研究を指導する。</p> <p>(15 安藤 真美) 調理操作による食品の栄養・嗜好性・機能性の変化に関する研究を指導する。</p> <p>(16 小川 俊夫) 医療ビッグデータを用いて食習慣と健康との関連を明らかにする研究を指導する。</p> <p>(17 黒川 通典) 地域住民の食生活が健康に与える影響に関する研究を指導する。</p> <p>(18 樽井 雅彦) 次世代の調理技術・給食提供システムおよび在宅への配食に関する研究を指導する。</p> <p>(19 平原 嘉親) 食品中に残留する有害物質の安全性確保に関する研究を指導する。</p> <p>(20 藤林 真美) ヒトの QOL 向上に向けた栄養と運動トレーニングに関する研究を指導する。</p> <p>(22 百木 和) 高齢者の健康寿命延伸を目指した栄養サポートに関する研究を指導する。</p> <p>(23 山田 徳広) n-3 系脂肪酸と n-6 系脂肪酸の代謝と摂取バランスに関する研究を指導する。</p> <p>(24 浦出 俊和) 農村地域における地域資源の適正管理・利活用に関する研究を指導する。</p> <p>(25 北川 太一) 集落型農業法人の展開および協同組合の組織・事業に関する研究を指導する。</p> <p>(26 成 耆政) 農業におけるソーラーシェアリングを活用したビジネスモデルに関する研究を指導する。</p> <p>(27 田中 樹) 少子高齢化地域での潜在性の発掘と活性化への実践展開に関する研究を指導する。</p> <p>(28 種市 豊) 農産物輸送の問題と食品ロスに関する研究を指導する。</p> <p>(29 山本 尚俊) 卸売市場制度の改革と水産物流通の変容・再編に関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究Ⅱ	<p>(30 吉井 邦恒) 農業のリスクに対応したセーフティーネット政策の国際比較に関する研究を指導する。</p> <p>(31 飯田 祐一郎) 植物病原菌の病原性と生物防除機構に関する研究を指導する。</p> <p>(32 牛島 智一) 育種利用のための遺伝子機能解析と遺伝資源開発に関する研究を指導する。</p> <p>(33 藤井 毅) 昆虫の交信系に関する化学生態学的研究を指導する。</p> <p>(34 加藤 裕介) 光合成タンパク質の品質管理機構に関する研究を指導する。</p> <p>(35 田中 茂幸) 植物寄生性糸状菌の植物成長制御メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(36 松尾 充啓) ゲノム進化の原理に関する研究を指導する。</p> <p>(37 芳本 玲) スプライシング制御 RNA に関する研究を指導する。</p> <p>(38 畦西 克己) 咀嚼および嚥下機能低下における機能性食品を用いた臨床研究を指導する。</p> <p>(39 岸本 良美) 食品に含まれる栄養・機能性成分による代謝性疾患予防に関する研究を指導する。</p> <p>(40 川崎 訓昭) 先進的農業経営体の経営発展に関する研究を指導する。</p> <p>(41 副島 久実) 農水産物・食品の流通とマーケティングに関する研究を指導する。</p> <p>(42 谷口 葉子) オーガニック等のサステイナブルな食の取り組みに関する研究を指導する。</p> <p>(43 中塚 華奈) 持続可能な社会形成にむけた食農教育とナッジに関する研究を指導する。</p> <p>(44 北村 祐人) 落葉果樹の生殖形質および温度要求性に関する研究を指導する。</p> <p>(45 高木 大輔) 陸上植物の生育環境に対する光合成反応制御機構に関する研究を指導する。</p> <p>(46 國島 大河) 水圏生物の生態学および生活史に関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	農学特別研究Ⅱ	<p>(47 小林 直木) 細胞膜トランスポーターを介した脂質輸送に関する生化学的研究を指導する。</p> <p>(48 戴 容秦思) 国内外の農畜産物の市場・流通に関する研究を指導する。</p>	

授業科目の概要

（農学研究科 農学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義科目	食農科学特別講義	<p>（概要）食農科学の多様な研究分野について、最先端の研究状況を広く学ぶ。それぞれの専門分野に関する知識だけでなく、周辺領域の課題や最新成果を幅広く学ぶことで、より広い視点から専門分野を捉え、研究成果の社会実装も含めて深く考察できる能力を身につけさせる。そのために、多様な分野を専門とするゲストスピーカーの講義を受け、質疑応答を深める。担当教員が、トピックの解説や質問の補足を適時行うことで、学生の理解を深める。学生には、学んだ知識を各自の専門分野と関係づけつつ総合化および深化させることを求め、中間と最終の報告会で主体的に発表させる。報告会では、担当教員がファシリテーターとして論点の提示や、最新の知見の補足を行うことで、学生の科学的・論理的な考察能力を高める。また、各自の研究を多様な研究分野の中に適切に位置づけ、わかりやすく発表する能力を身につけさせる。さらに、研究倫理についての事例調査を通じ、科学研究における倫理に関する意識を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（3 川崎 通夫、8 椎名 隆、14 和田 大、21 水間 智哉、24 浦出 俊和／3回）（共同） ガイダンス、中間報告会、最終報告会を実施する。</p> <p>（3 川崎 通夫／2回） ゲストスピーカーを招き、農業生産科学の現状と課題、新しい展開についての最新研究を解説する。</p> <p>（14 和田 大／2回） ゲストスピーカーを招き、応用生物科学の現状と課題、今後の展望についての最新研究を解説する。</p> <p>（21 水間 智哉／2回） ゲストスピーカーを招き、食品特性及び食品の開発と技術、食品の健康機能についての最新研究を解説する。</p> <p>（24 浦出 俊和／2回） ゲストスピーカーを招き、地域農業の新しい展開、六次産業化についての最新研究を解説する。</p> <p>（8 椎名 隆／4回） ゲストスピーカーを招き、農学と関係した生命科学、化学、健康科学、情報科学の現状についての最新研究を解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
演習科目	農業生産科学特別演習	<p>「農業生産科学特別演習」では、大学院生各々が質疑討論を通じて、自身の研究テーマ、研究計画について検討を行うとともに、研究の進捗状況や到達点、問題点などを報告して、研究の精度を更に向上させ、最終的な成果物である博士論文の作成に資することを目的とする。本特別演習では、農業生産科学に関わる諸問題の解決や調査・研究を遂行するための高度な能力と実践力を身につけることを目的に、農業生産科学に関連する文献・学術論文の精読を行い、実践的で高度な調査方法、分析手法に関する知見を蓄積し、研究成果の精度を高めることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	応用生物科学特別演習	「応用生物科学特別演習」では、大学院生各々が質疑討論を通じて、自身の研究テーマ、研究計画について検討を行うとともに、研究の進捗状況や到達点、問題点などを報告して、研究の精度を更に向上させ、最終的な成果物である博士論文の作成に資することを目的とする。本特別演習では、応用生物科学に関わる諸問題の解決や調査・研究を遂行するための高度な能力と実践力を身につけることを目的に、応用生物科学に関連する文献・学術論文の精読を行い、実践的で高度な調査方法、分析手法に関する知見を蓄積し、研究成果の精度を高めることを目指す。	
	食品栄養科学特別演習	「食品栄養科学特別演習」では、大学院生各々が質疑討論を通じて、自身の研究テーマ、研究計画について検討を行うとともに、研究の進捗状況や到達点、問題点などを報告して、研究の精度を更に向上させ、最終的な成果物である博士論文の作成に資することを目的とする。本特別演習では、食品栄養科学に関わる諸問題の解決や調査・研究を遂行するための高度な能力と実践力を身につけることを目的に、食品栄養科学に関連する文献・学術論文の精読を行い、実践的で高度な調査方法、分析手法に関する知見を蓄積し、研究成果の精度を高めることを目指す。	
	食農ビジネス学特別演習	「食農ビジネス学特別演習」では、大学院生各々が質疑討論を通じて、自身の研究テーマ、研究計画について検討を行うとともに、研究の進捗状況や到達点、問題点などを報告して、研究の精度を更に向上させ、最終的な成果物である博士論文の作成に資することを目的とする。本特別演習では、食農ビジネス学領域に関わる諸問題の解決や調査・研究を遂行するための高度な能力と実践力を身につけることを目的に、食農ビジネス学領域に関する文献・学術論文の精読を行い、実践的で高度な調査方法、分析手法に関する知見を蓄積し、研究成果の精度を高めることを目指す。	
特別研究科目	特別研究	<p>(概要) 本授業では、大学院生自身が主体的に研究課題を設定し、関連する情報の収集と整理、実験の計画と実施、実験結果の解析と評価、研究成果の学会などでの発表、および研究成果に基づく学術雑誌への論文の投稿と掲載を通じて、博士としての知識と技能を修得した上で、研究の集大成として博士論文を作成する。研究遂行の過程では院生が教員と議論しながら主体的に研究を進め、学会や研究会などの機会を利用して、研究室内や学内にとどまらず、幅広い立場の人との活発な議論を重視する。このような研究活動を通して、農学分野における自立した研究者・専門技術者として、学術上の課題や社会の様々な課題を解決できる能力を持った人材となる。</p> <p>(1 浅尾 俊樹) 園芸植物の自家中毒と植物工場による機能性食品の生産に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(2 大澤 直哉) 昆虫と森林樹木の群集生態に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(3 川崎 通夫) 作物における機能形態と環境応答に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(4 久保 康之) 植物病原菌の病原性と感染器官の形態形成に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(5 佐藤 和広) 植物の遺伝変異と育種に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(6 佐野 修司) 有機物動態に着目した都市近郊における土壌機能に関する発展的研究を研究指導する。</p> <p>(7 玉置 雅彦) 生産性が高く環境に優しい作物栽培に関する先端的研究を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究 特別研究 科目	特別研究	<p>(8 椎名 隆) 植物機能の光合成制御メカニズムに関する先端的研究を指導する。</p> <p>(9 井上 亮) ヒトや動物の腸の機能・役割に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(10 海道 真典) 植物ウイルスの増殖メカニズムの解明と防除技術開発に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(11 加藤 直樹) 糸状菌による生理活性物質生産メカニズムに関する先端的研究を指導する。</p> <p>(12 増田 太郎) 水圏生物の適切な利用と保全に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(13 矢崎 潤史) 植物細胞の包括的生化学解析による植物機能に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(14 和田 大) ビフィズス菌の含硫アミノ酸代謝酵素の機能解析、新規有用酵母に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(15 安藤 真美) 調理操作による食品の栄養・嗜好性・機能性の変化に関する高度な研究を指導する。</p> <p>(16 小川 俊夫) 医療ビッグデータを用いて食習慣と健康との関連に関する高度な研究を指導する。</p> <p>(17 黒川 通典) 地域住民の食生活が健康に与える影響に関する高度な研究を指導する。</p> <p>(19 平原 嘉親) 食品中に残留する有害物質の安全性確保に関する応用研究を指導する。</p> <p>(20 藤林 真美) ヒトの QOL 向上に向けた栄養と運動トレーニングに関する高度な研究を指導する。</p> <p>(22 百木 和) 高齢者の健康寿命延伸を目指した栄養サポートに関する高度な研究を指導する。</p> <p>(23 山田 徳広) n-3 系脂肪酸と n-6 系脂肪酸の代謝と摂取バランスに関する先端的研究を指導する。</p> <p>(24 浦出 俊和) 持続可能な地域活性化の規定条件の解明とその評価手法の開発に関する研究を指導する。</p> <p>(25 北川 太一) 食と農を中心とした非営利協同のビジネスおよび協同組合間連携の構築に関する研究を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究科目	特別研究	<p>(26 成 春政) TGD を用いた地域特産物の品目別成長可能性に関する計量経済的分析を指導する。</p> <p>(27 田中 樹) 脆弱環境における暮らしの向上と資源・生態系保全の両立に向けた地域開発アプローチに関する研究を指導する。</p> <p>(28 種市 豊) 農畜産物の市場構造ならびにマーケティングに関する研究を指導する。</p> <p>(29 山本 尚俊) 水産物を中心とした生鮮食料品の流通・取引構造とその変容メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(30 吉井 邦恒) 農業のリスクに対応したセーフティネット政策の構築に関する研究を指導する。</p> <p>(31 飯田 祐一郎) 植物病原菌の病原性と生物防除機構に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(32 牛島 智一) 育種利用のための遺伝子の高度機能解析と遺伝資源開発に関する先端研究を指導する。</p> <p>(33 藤井 毅) 昆虫の交信系に関する高度な化学生態学的研究を指導する。</p> <p>(34 加藤 裕介) 光合成タンパク質の品質管理機構に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(35 田中 茂幸) 植物寄生性糸状菌の植物成長制御メカニズムに関する先端的研究を指導する。</p> <p>(36 松尾 充啓) ゲノム進化の原理に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(37 芳本 玲) スプライシング制御 RNA に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(38 畦西 克己) 咀嚼および嚥下機能低下における機能性食品を用いた高度な臨床研究を指導する。</p> <p>(39 岸本 良美) 食品に含まれる栄養・機能性成分による代謝性疾患予防に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(40 川崎 訓昭) 農業経営体の経営発展と連携関係の構築に関する研究を指導する。</p> <p>(41 副島 久実) 産地および食品企業のマーケティング戦略の展開と課題の分析と理論化に関する研究を指導する。</p> <p>(42 谷口 葉子) 有機食品市場の構造と流通の効率化に関する研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究 科目	特別研究	<p>(43 中塚 華奈) 食農教育によるサステナブルな行動変容に関する研究を指導する。</p> <p>(44 北村 祐人) 落葉果樹の生殖形質および温度要求性に関する高度な遺伝学的研究を指導する。</p> <p>(45 高木 大輔) 光合成反応制御機構の生理生態学的解析と作物の環境適応能力強化に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(46 國島 大河) 水圏生物の生態学および生活史に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(47 小林 直木) 細胞膜トランスポーターを介した脂質輸送の生化学に関する先端的研究を指導する。</p> <p>(48 戴 容秦思) 資本主義的食料システムにおける農畜産物の市場・流通に関する研究を指導する。</p>	

学校法人常翔学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和5年度	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員 (完成年度)	令和6年度	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員 (完成年度)	変更の事由
摂南大学大学院					摂南大学大学院					
薬学研究科	4	-	-	16	薬学研究科	4	-	-	16	
医療薬学専攻 (4年制D)	4	-	-	16	医療薬学専攻 (4年制D)	4	-	-	16	
理工学研究科	38	-	-	80	理工学研究科	38	-	-	80	
社会開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	社会開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	
生産開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	生産開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	
生命科学専攻 (M)	10	-	-	20	生命科学専攻 (M)	10	-	-	20	
創生工学専攻 (D)	2	-	-	6	創生工学専攻 (D)	2	-	-	6	
生命科学専攻 (D)	2	-	-	6	生命科学専攻 (D)	2	-	-	6	
経済経営学研究科	10	-	-	20	経済経営学研究科	10	-	-	20	
経済学専攻 (M)	5	-	-	10	経済学専攻 (M)	5	-	-	10	
経営学専攻 (M)	5	-	-	10	経営学専攻 (M)	5	-	-	10	
法学研究科	5	-	-	10	法学研究科	5	-	-	10	
法律学専攻 (M)	5	-	-	10	法律学専攻 (M)	5	-	-	10	
国際言語文化研究科	5	-	-	10	国際言語文化研究科	5	-	-	10	
国際言語文化専攻 (M)	5	-	-	10	国際言語文化専攻 (M)	5	-	-	10	
看護学研究科	6	-	-	12	看護学研究科	6	-	-	12	
看護学専攻 (M)	6	-	-	12	看護学専攻 (M)	6	-	-	12	
					農学研究科	23	-	-	49	研究科の設置 (認可申請)
					農学専攻 (M)	20	-	-	40	
					農学専攻 (D)	3	-	-	9	
計	68	-	-	148	計	91	-	-	197	

令和5年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
摂南大学					摂南大学					
理工学部	585	-	30	2,400	理工学部	585	-	30	2,400	
生命科学科	105	-	5	430	生命科学科	105	-	5	430	
住環境デザイン学科	85	-	5	350	住環境デザイン学科	85	-	5	350	
建築学科	80	-	5	330	建築学科	80	-	5	330	
機械工学科	130	-	5	530	機械工学科	130	-	5	530	
電気電子工学科	105	-	5	430	電気電子工学科	105	-	5	430	
都市環境工学科	80	-	5	330	都市環境工学科	80	-	5	330	
経営学部	280	-	6	1,132	経営学部	280	-	6	1,132	
経営学科	280	-	6	1,132	経営学科	280	-	6	1,132	
薬学部	220	-	-	1,320	薬学部	220	-	-	1,320	
薬学科 (6年制)	220	-	-	1,320	薬学科 (6年制)	220	-	-	1,320	
法学部	280	-	5	1,130	法学部	280	-	5	1,130	
法律学科	280	-	5	1,130	法律学科	280	-	5	1,130	
経済学部	280	-	4	1,128	経済学部	280	-	4	1,128	
経済学科	280	-	4	1,128	経済学科	280	-	4	1,128	
看護学部	100	-	-	400	看護学部	100	-	-	400	
看護学科	100	-	-	400	看護学科	100	-	-	400	
農学部	340	-	-	1,360	農学部	340	-	-	1,360	
農業生産学科	80	-	-	320	農業生産学科	80	-	-	320	
応用生物科学科	80	-	-	320	応用生物科学科	80	-	-	320	
食品栄養学科	80	-	-	320	食品栄養学科	80	-	-	320	
食農ビジネス学科	100	-	-	400	食農ビジネス学科	100	-	-	400	
国際学部	250	-	5	1,010	国際学部	250	-	5	1,010	
国際学科	250	-	5	1,010	国際学科	250	-	5	1,010	
現代社会学部	250	-	-	1,000	現代社会学部	250	-	-	1,000	
現代社会学科	250	-	-	1,000	現代社会学科	250	-	-	1,000	
計	2,585	-	50	10,880	計	2,585	-	50	10,880	

令和5年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学大学院					大阪工業大学大学院					
工学研究科	116	-	-	238	工学研究科	116	-	-	238	
建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	
建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	
電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	-	100	電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	-	100	
電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	-	6	電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	-	6	
化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	-	60	化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	-	60	
化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	-	6	化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	-	6	
ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	-	66	ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	-	66	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	
情報科学研究科	45	-	-	95	情報科学研究科	45	-	-	95	
情報科学専攻 (M)	40	-	-	80	情報科学専攻 (M)	40	-	-	80	
情報科学専攻 (D)	5	-	-	15	情報科学専攻 (D)	5	-	-	15	
知的財産研究科	30	-	-	60	知的財産研究科	30	-	-	60	
知的財産専攻 (P)	30	-	-	60	知的財産専攻 (P)	30	-	-	60	
計	223	-	-	459	計	223	-	-	459	

令和5年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学					大阪工業大学					
工学部	900	-	40	3,680	工学部	900	-	40	3,680	
都市デザイン工学科	100	-	5	410	都市デザイン工学科	100	-	5	410	
建築学科	150	-	5	610	建築学科	150	-	5	610	
機械工学科	140	-	5	570	機械工学科	140	-	5	570	
電気電子システム工学科	125	-	5	510	電気電子システム工学科	125	-	5	510	
電子情報システム工学科	110	-	5	450	電子情報システム工学科	110	-	5	450	
応用化学科	130	-	5	530	応用化学科	130	-	5	530	
環境工学科	75	-	5	310	環境工学科	75	-	5	310	
生命工学科	70	-	5	290	生命工学科	70	-	5	290	
ロボティクス&デザイン工学部	280	-	15	1,150	ロボティクス&デザイン工学部	280	-	15	1,150	
ロボット工学科	90	-	5	370	ロボット工学科	90	-	5	370	
システムデザイン工学科	90	-	5	370	システムデザイン工学科	90	-	5	370	
空間デザイン学科	100	-	5	410	空間デザイン学科	100	-	5	410	
情報科学部	460	-	20	1,880	情報科学部	460	-	20	1,880	
データサイエンス学科	70	-	-	280	データサイエンス学科	70	-	-	280	
情報知能学科	90	-	5	370	情報知能学科	90	-	5	370	
情報システム学科	105	-	5	430	情報システム学科	105	-	5	430	
情報メディア学科	105	-	5	430	情報メディア学科	105	-	5	430	
ネットワークデザイン学科	90	-	5	370	ネットワークデザイン学科	90	-	5	370	
知的財産学部	140	-	10	580	知的財産学部	140	-	10	580	
知的財産学科	140	-	10	580	知的財産学科	140	-	10	580	
計	1,780	-	85	7,290	計	1,780	-	85	7,290	

令和5年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
広島国際大学大学院					広島国際大学大学院					
看護学研究科	13	-	-	29	看護学研究科	13	-	-	29	
看護学専攻 (M)	10	-	-	20	看護学専攻 (M)	10	-	-	20	
看護学専攻 (D)	3	-	-	9	看護学専攻 (D)	3	-	-	9	
医療・福祉科学研究科	22	-	-	46		0	-	-	0	
医療工学専攻 (M)	10	-	-	20		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
医療工学専攻 (D)	2	-	-	6		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
医療福祉学専攻 (M)	5	-	-	10		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
医療経営学専攻 (M)	5	-	-	10		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
心理科学研究科	22	-	-	46		0	-	-	0	
臨床心理学専攻 (D)	2	-	-	6		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	-	40		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
薬学研究科	2	-	-	8	薬学研究科	2	-	-	8	
医療薬学専攻 (4年制D)	2	-	-	8	医療薬学専攻 (4年制D)	2	-	-	8	
					医療科学研究科	14	-	-	32	研究科の設置 (届出)
					保健医療学専攻 (M)	5	-	-	10	
					保健医療学専攻 (D)	2	-	-	6	
					リハビリテーション学専攻 (M)	5	-	-	10	
					リハビリテーション学専攻 (D)	2	-	-	6	
					健康科学研究科	32	-	-	66	研究科の設置 (届出)
					医療福祉学専攻 (M)	5	-	-	10	
					医療経営学専攻 (M)	5	-	-	10	
					心理学専攻 (M)	20	-	-	40	
					心理学専攻 (D)	2	-	-	6	
計	59	-	-	129	計	61	-	-	135	

令和5年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
広島国際大学					広島国際大学					
保健医療学部	220	-	-	880	保健医療学部	220	-	-	880	
診療放射線学科	70	-	-	280	診療放射線学科	70	-	-	280	
医療技術学科	100	-	-	400	医療技術学科	100	-	-	400	
救急救命学科	50	-	-	200	救急救命学科	50	-	-	200	
総合リハビリテーション学部	180	-	-	720	総合リハビリテーション学部	180	-	-	720	
リハビリテーション学科	180	-	-	720	リハビリテーション学科	180	-	-	720	
看護学部	120	-	10	500	看護学部	120	-	10	500	
看護学科	120	-	10	500	看護学科	120	-	10	500	
薬学部	120	-	-	720	薬学部	120	-	-	720	
薬学科 (6年制)	120	-	-	720	薬学科 (6年制)	120	-	-	720	
健康科学部	350	-	-	1,400	健康科学部	350	-	-	1,400	
医療福祉学科	100	-	-	400		0	-	-	0	令和6年4月学生募集停止
医療経営学科	90	-	-	360	医療経営学科	90	-	-	360	
心理学科	100	-	-	400	心理学科	100	-	-	400	
医療栄養学科	60	-	-	240	医療栄養学科	60	-	-	240	
					社会学科	100	-	-	400	学科の設置 (届出)
健康スポーツ学部	70	-	-	280	健康スポーツ学部	70	-	-	280	
健康スポーツ学科	70	-	-	280	健康スポーツ学科	70	-	-	280	
計	1,060	-	10	4,500	計	1,060	-	10	4,500	